



令和 5 年度学長教育助成制度連携
地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成



G-DORM 学生交流プログラム 2023（中期派遣・長期派遣）
新潟大学からの参加者募集について【学部生・院生ともに対象】

5月31日（水）正午締切

新潟大学附属工学力教育センターでは、夏休みに王立プノンペン大学（カンボジア）、ラオス国立大学（ラオス）、チュラロンコン大学（タイ）、ハノイ工科大学（ベトナム）を留学先とする、学生交流プログラムに参加する学部生及び院生を募集します。留学期間は 2023年8月7日（月） 現地到着予定で、中期プログラムが約2～3か月、長期プログラムは約6か月の予定です。

このプログラムでは、新潟大学の学生が、それぞれの大学の学生とともに、専攻・学年・国籍混合の小グループとなり、それぞれの国で事業展開を行う新潟県や新潟大学に縁のある企業（製造業）を訪問し、グループインターンシップとして企業活動を体験します。そして、その企業活動で発見した問題やその改善策についてグループ討論を行い、企業に対して改善提案を行います。また、それぞれの国での理工学系大学の中ではトップクラスの各大学で、授業や研究に参加する機会もあります。国際交流と課題解決型学習（PBL：Project Based Learning）を組み合わせた、先進的な学生交流プログラムです。

少子高齢化による国内市場の縮小や、アジア諸国の低賃金な労働力などから、理工系の業種においても、グローバルな視点から課題を発見・解決できる人材が必要とされています。この学生交流プログラムに参加することで、以下のような学びが期待できます。

- 日系企業がグローバル化の流れの中で、どのようにして成長・高度化し、国際展開を図っていったのか、というプロセスについて、企業訪問により直接的に体験しながら学ぶこと。
- メコン諸国の学生とのグループワークを通して、国によって異なる課題やニーズについて把握し、その課題解決や地域・産業創生についてリアリティをもって学ぶこと。
- メコン諸国の学生との交流により、異文化理解や国際協調性や英語コミュニケーション能力が向上すること。

本プログラムは、正規カリキュラムの一環として実施するため、他にはない、以下のようなメリットがあります。

- 現地渡航による派遣プログラムを修了し、一定の評価を得た学生には、3単位以上（中期の場合）、もしくは4単位以上（長期の場合）を取得することが可能です。また、所定の修了認定単位数を満たした「地域協働によるグローバル・ドミトリー・プログラム」を修了したことを認定する認定書を授与します。
- 基本的選抜基準を満たした学生においては、海外渡航に要する費用を一部補助します。また、入国に関し、査証申請をサポートします。
- 日本学生支援機構（JASSO）による給付型奨学金を取得することで、派遣期間中、70,000円/月の支給を得ることができます。これにより、現地での生活費（宿泊・食事等）の多くをカバーできます。
- 現地での移動や宿舎、生活の情報収集等に関しては、相手大学からの協力を得る体制ができています。また、工学力教育センターからもバックアップします。

この学生交流プログラムは、将来、理工系グローバルリーダーとして活躍するために必要となる知識や経験、国際感覚を学ぶものです。今後ますます国際化が進展する中で、みなさんの将来の研究や就職にきっと役立ちます。ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）の自己アピールにも有用です。

ぜひご応募ください！

1. 実施期間及び募集人数

(1) 中期派遣

①対象者：本学の学部学生（学士課程）もしくは院生（博士前期及び後期課程）であること。

ただし、9月までに卒業・修了見込みの学生は応募できません。

②留学先・募集人数：王立プノンペン大学（カンボジア）、ラオス国立大学（ラオス）、チュラロンコン大学（タイ）、ハノイ工科大学（ベトナム）。いずれも2名ずつ

③留学期間：2023年8月7日（月）から9月29日（金）まで

なお、院生は、最長10月27日まで延長可能（最大2名まで）

(2) 長期派遣

①対象者：本学の院生（博士前期及び後期課程）であること。

ただし、9月までに卒業・修了見込みの学生は応募できません。

②留学先・募集人数：チュラロンコン大学（タイ）、ハノイ工科大学（ベトナム）。いずれも1名ずつ

③留学期間：2023年8月7日（月）から2024年2月9日（金）まで

なお、博士前期課程1年の中間発表参加を要する場合、1月14日（日）まで期間短縮可

＜留意事項＞

※ 参加学生決定後の航空券手配や各大学・企業と調整の結果、期間が前後する可能性あり。

※ 上記は留学期間（現地着・発）であり、学内での事前学習・事後学習の日程は含みません。

2. 活動内容

(1) 出発前の事前学習（6月～7月予定）

・インターンシップの内容、現地での生活や安全に関すること、英語学習に関すること等、事前学習を行います。

(2) 留学中の活動①：各国の日系企業でのインターンシップ

・各国のそれぞれの大学の学生と3～4人のグループになり、各国の日系企業でグループワーク・インターンシップを行います。このインターンシップでは、企業から与えられた問題・課題に対して、就業体験を通して原因追及と改善提案をグループ活動として行います。そして、最後には、その改善提案を企業に対してプレゼンテーションを行います。

インターンシップは、原則、企業の監督の下で実施しますが、G-DORM担当教員に週報を提出し、進捗に限らず、悩みや相談などに対しても、メール・ネット電話等により助言を得て進めます。

※コロナ等により、現地での日系企業でのインターンシップ実施が困難な場合は、日本の企業等による遠隔での指導の下、現地でのフィールドワークやマーケット調査などを行うことで、課題発見・課題解決提案をグループ活動として行う形式のインターンシップを想定しています。

※コロナ等により、現地大学の学生がインターンシップに参加できない場合等は、一部の活動を補完するため、本学とオンラインでつなぎ、英語ディスカッションを行うこともあります。

(3) 留学中の活動②：各大学での講義の受講/研究活動への参加

・各国の留学先大学で、インターンシップ以外の期間、講義を受講あるいは研究活動に参加します。

(4) 帰国後の事後学習と課題提出

・成果発表会において、留学中の活動で得られた成果について、英語で発表します。また、自己の学びについて振り返り、今後の大学での勉学や研究につなげられるよう、事後課題（レポート等）に取り組みます。なお、協力企業からの要望に応じて、企業訪問・報告を行うこともあります。

3. 活動スケジュール

- 5月下旬 応募締切，参加者の選定。
- 6月上旬 JASSO 奨学金等の申請書類作成，派遣先大学への提出書類作成。
- 6月～7月 出発前の事前学習。
- 8月7日 日本出国。
- 9月29日 日本帰国（中期の場合。なお院生は10月27日まで延長の可能性あり）。
- 10月～11月 成果発表会の実施・レポート等の課題提出（中期の場合）。
- 2月9日 日本帰国（長期の場合。なおM1は1月14日まで期間短縮の可能性あり）。
- 2月～3月 成果発表会の実施・レポート等の課題提出（長期の場合）。

4. 参加費用

旅費を除き不要です。

旅費（例えば以下に示すもの）は参加者負担です。なお、移動経費や宿泊費、現地での生活費の多くは、JASSOの奨学金（5.を参照）を取得することでかなりカバーできるため、**他のプログラムと比較しても安価で参加することができます。**

- 空港までの往復交通費 ※1
- 航空券※1, ※2
- 留学先国での国内交通費
- 留学先での宿泊費 ※3
- 留学先での食費等の生活費
- 海外旅行傷害保険・危機管理サービス（保険・危機管理サービスには必ず加入していただきます）
- 査証取得に係る費用
- パスポート取得費（持っていない場合）
- オプションツアーやお土産代 など

※1 成田空港もしくは羽田空港発着のフライトの利用を想定しています。そのため、発着空港に集合・解散とする予定です。なお、新潟空港発着のフライトは、新型コロナウイルス感染症により運休していますが、それが再開された場合は、当該フライトの利用を優先します。

※2 渡航費の一部補助を予定しています。

※3 各大学から安価で安全な滞在施設の情報を提供していただく予定です。安全管理上、原則は、各大学から紹介頂いた施設に滞在して頂きます。

5. 日本学生支援機構（JASSO）による奨学金

成績等、一定の要件を満たす日本人学生（日本への永住が許可されている者を含む）は、（独）日本学生支援機構（JASSO）への申請により、給付型奨学金を得ることができます。奨学金の額は、毎月70,000円です。この奨学金は、渡航中に在籍確認を行った後、支給対象学生の口座へ振り込まれます（渡航前には支給されません）。

6. 応募に当たっての注意事項

応募に際しては、下記事項について必ず承諾の上で行ってください。

- 派遣前後にはレポートやプレゼンテーション等の課題を提出していただきます。
- 緊急事態がない限り、本プログラムの途中参加（遅れて渡航）及び本プログラム実施期間中の日本への帰国は認められません。

- 病気・けが等の理由がない限り、本プログラムの活動には全て出席してください。
- 現地での活動に際しては、派遣先大学や訪問先企業等の指示に従って行動してください。怠慢な態度であったり、理由もなく遅刻したりした場合は、学習活動中断を言い渡されることもあり得ます。
- グループワークなどでは、各国の学生等との英語での討論となりますが、積極的に議論に参加する意欲をもって参加してください。
- 現地滞在中は、現地の文化を尊重し、新潟大学の学生代表の自覚をもって行動してください。
- 渡航期間中は工学部が指定する海外旅行傷害保険及び危機管理サービスに加入していただきます。
- 参加の際には、必ず保護者に説明のうえ、同意を得てください。渡航前に保護者の同意書を提出していただきます。
- 学年担当（3年までの場合・工学部学生のみ）/指導教員（4年以上の場合）に本プログラムへの参加意欲を予め伝えた上で、応募してください。
- 応募に際して、参加申込書の注記に従い優先順位を付けることで、対象4か国すべての国を希望し、応募することも歓迎します。また院生の場合は、中期及び長期の両プログラムに同時応募することも可能です。ただし、参加者として選考される留学先はいずれか1つの国・プログラムとなります。
- 本プログラムの活動の様子を撮影した写真・ビデオは、広報活用や、今後の国際交流プログラムの教材資料として活用させて頂くことに、予めご了承ください。
- 本プログラム終了後にG-DORMの改善・発展のための活動（説明会での経験談や経験学生としてのサポート、プログラム改善のためのフィードバック等）に協力を求めます。予めご承知ください。
- G-DORM関連の英語による国際共修講義・演習科目として、国際工学事情（7月土曜短期集中）、国際技術協力（第3ターム）、及び国際工学特論（第2学期：第3ターム及び第4タームの毎週月曜1限）を開講します。これらの講義は、国際協働（チームワーク）力や英語コミュニケーション能力を向上させる渡航前学習あるいは事後学習にもつながります。また、後述するように、中期プログラム及び長期プログラムの修了認定に要する選択科目にも該当するため、受講を強く推奨します。
- 本プログラム参加に当たって、英語力向上効果を測るため、プログラム開始前とプログラム終了後にTOEIC等の英語資格試験の受験を推奨します。獲得した資格や英語スコア情報について、本学工学部に情報提供頂くよう、ご協力をお願いします。なお、提供頂いた情報は統計的に処理した上で活用するため、個別の情報を公開することはありません。

7. 応募方法【※申込期限を延長しました】

指定の参加申込書（表裏とも）に記入し、PDFとして保存したファイルを、2023年5月31日（木）5月25日（木）正午までに、下記提出先のメールアドレスまで、メールにて提出してください。

【提出先】 g-dorm-j@eng.niigata-u.ac.jp

新潟大学工学部附属工学力教育センター国際教育部門（担当：中野）

8. 選考方法

(1) 書類選考・面接の実施

- 提出書類をもとに書類選考を行い、通過者には面接を実施します。詳細は、メール連絡します。

(2) 採否の決定

- 提出書類や面接結果、英語スコア、学業成績をもとに、参加意欲や英語力などを総合的に評価して採否を決定します。なお、評価結果が並んだ場合は、工学系の学部生・院生を優先します。

9. 単位と修了認定について

本プログラムへの参加に係る、学生自身の事前事後を含む活動状況や課題等を総合的に判断し、一定の評価を得た学生には、以下のように単位を付与する予定です。

- ・ 学部生の場合：原則として、工学部専門応用科目「国際テクノロジー（もしくはマーケット）・グループワーク・インターンシップ B」（3 単位，中期派遣の場合）。
- ・ 大学院生の場合：原則として、課程共通科目「先端的（博士後期の場合は高度先端的）国際テクノロジー（もしくはマーケット）・グループワーク・インターンシップ A」（3 単位，中期派遣の場合）もしくは「同 B」（4 単位，長期派遣の場合）。

※単位数は、インターンシップ期間により異なります。インターンシップ期間は、今後の受入企業との協議により決定します。既に上記科目を履修済みで本プログラムへの応募申請をご検討されている方は、単位付与について、事前に下記担当にお問合せをお願いします。

上記のインターンシップ履修は、本プログラムの必修科目となります。必修科目 2 単位以上取得を満たした学生には、「地域協働によるグローバル・ドミトリー・プログラム（短期相当）」を修了したことを認定する認定書を授与します。必修科目 3 単位及び選択科目（渡航前に本学で開講される講義科目の「国際工学事情」、「国際技術協力」、「国際工学特論」等）1 単位以上、計 4 単位以上の取得を満たした学生には、「地域協働によるグローバル・ドミトリー・プログラム（中期相当）」を修了したことを認定する認定書を授与します。必修科目 4 単位及び選択科目 4 単位以上、計 8 単位以上の取得を満たした学生には、「地域協働によるグローバル・ドミトリー・プログラム（長期相当）」を修了したことを認定する認定書を授与します。

10. お問い合わせ

工学部附属工学力教育センター・国際教育部門の教職員にお気軽にお問合せください。

担当：中野（025-262-7290）、上田（025-262-7025）、馬場（025-262-7369）

メール g-dorm@eng.niigata-u.ac.jp

G-DORM プロジェクトのホームページ・SNS を是非ご覧下さい！	ホームページ	Facebook
Homepage: http://www.eng.niigata-u.ac.jp/~g-dorm/		
Facebook: https://www.facebook.com/gdorm.niigata/		
Instagram: https://www.instagram.com/g_dorm_niigatauniv/		

G-DORM Web サイト「学生の声」※これまでの G-DORM プログラム参加学生の体験談が見られます！

<https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~g-dorm/contents/voice/?prog=outbound>

参考：留学先の大学について

メコン諸国側の参加大学について	
<p>王立プノンペン大学（カンボジア）</p>   <p>1960年設立。理学部，工学部，開発学部，人文社会科学学部，教育学部の5学部と外国語研究所の1研究所を擁する総合大学で，カンボジアの教育・研究をけん引するリーディング大学。インターンシップなどの実践的教育にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>http://www.rupp.edu.kh/</p>	<p>ラオス国立大学（ラオス）</p>   <p>1996年に設立されたラオス最大の国立の総合大学。11学部を擁する総合大学であり，ラオスの教育・研究をけん引するリーディング大学。理工系としては，工学部，農学部，理学部，建築学部，環境学部等の他分野を有する。ラオスに進出する日系企業との交流実績もある。</p> <p>http://nuol.edu.la/index.php/en/</p>
<p>チュラロンコン大学（タイ）</p>   <p>タイで最初に創設された17学部を擁する総合大学。国際的なアジアの大学ランキング上位で，タイ国内でもランキング2位の教育・研究の拠点大学。日本の大学との交流は盛んで，多くの学生が受入派遣されている。</p> <p>http://www.chula.ac.th/en/</p>	<p>ハノイ工科大学（ベトナム）</p>   <p>1956年に設立されたハノイ市の旧市街に位置する国立大学。17学部，8研究所，4リサーチセンターで構成され，ベトナムのリーディング大学の1つ。ベトナムの工学及び農学分野の教育・研究をけん引する中心的役割を果たしている。</p> <p>https://en.hust.edu.vn/home</p>